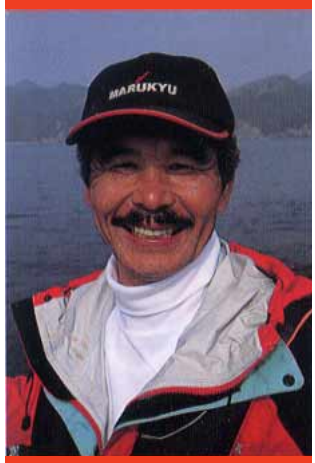


遠矢 国利 とおや くにとし

1947年生まれ、千葉県千倉在住。立ちウキ「遠矢うき」の考案者であり、制作者でもある。年間の釣行日数は200～250日にも及び、青森から鹿児島までの釣り場を釣り歩いている。

「くわせダンゴ」が効く！

自ら考案した立ちウキ「遠矢うき」を駆使し、チヌを狙い続ける遠矢国利氏。そんな氏は、配合エサにはもちろん付けエサにもこだわっています。そのおかげで、常にチヌを仕留められているのだそうです。

私の釣りは、まず狙うポイントの底の状態を把握することからスタートします。水深や海底の地形が分からないままに、ただ漫然と仕掛けを流していても、それで釣果を上げるのは難しいですからね。海底の状態を知ることで、チヌはどうエサを待っているのかといったことをイメージし、そのチヌをどう釣るのかという判断材料にするわけです。

たとえば、チヌは浅いところから深い方へ頭を向けてエサを待っていると私は考えているので、手前が深く、潮下側が浅くなっているところに釣り座を構えます。潮の向きが変わったときのことを考え、左右どちらも浅いところであればベストですね。

また、海底はフラットなのか、凹凸のあるところなのかといったことでも、釣りのスタイルは変わってきます（フラットであればチヌは浮いてきませんし、凹凸があれば仕掛けの操作上、ある程度浮かせる必要があります）。こういったことを理解した上で最適な釣りをするために、なるべく広い範囲を底取りするようにしているのです。

なお、オキアミと配合エサを混ぜるときは、タナに届くまでにポイントを過ぎてしまわないように練り込んだり、底がフラットな釣り場の場合は反対に、底に溜まるだけになってしまわないよう、かき混ぜるだけにしたりと工夫しています。

■付けエサ

付けエサはオキアミで通せればそれがベストだと思うのですが、最近は、多くの釣り場で一年中エサ取りが居着くようになっています。オキアミだけで通用するのは、まず春の乗っ込み初期ぐらいのものでしょう。いろいろなエサを持参するのも手ではありますが、それも手間なもの。ですから私は、あらゆるシーンで活躍する粉の練りエサ、「チヌパワーくわせダンゴ」を愛用しています。

つくり方を簡単に紹介すると、まず水くみバケツに「チヌパワーくわせダンゴ」1袋を入れます。そこに、200～250ccの海水を入れる。そして、指を広げて100回ぐらいまんべんなくかき混ぜてください。練り込まずに、バサバサに仕上げるのがコツです。あとは、ハリ付けした「くわせオキアミ

遠矢氏考案の「遠矢うき」。感度抜群で使いやすいため、初級者から上級者まで多くのファンがいます。

スペシャル」といったオキアミや、「くわせ練りエサ・チヌ」などの練りエサを包み込み、軽く握りながら丸めてやれば完成。大きさは、ピンポン玉かクルミぐらいが標準です。ハリ付けしたエサをエサ取りからガードしてくれるので、高水温時はもちろん、自らバラケて濁りをつくるので、食い渋る真冬や急激な水温低下時にも活躍してくれます。おかげで、私はシーズンを問わずに確実に釣果に出会えており、このエサがないと釣りに出かけたくないと思うほどです。ダンゴごと食ってくることもしばしばあり、本当に手放せない存在となっています。

使い方のコツとしては、エサ取りの多いときはできるだけ硬く、小さくして使います。食い渋るときは、逆に大きく軽めに握り、バラケを強調するようにしてください。なお、この場合はタナが深いと底まで届かないので、私の場合は、へら鮒釣りに使われる「粘力（ねんりき）」というエサをふたさじほど振りかけています。このエサは、バラケ性をそこなわずにエサのまとまりをよくするものなのですが、「チヌパワーくわせダンゴ」でも同様の効果が望め、バラケを遅らせてしっかりとタナまで届かせてくれます。なお、アタリはすべて早アワセでとるようにしてください。

それでは、私のお薦めする配合エサのブレンドパターンを紹介していきましょう。オキアミの量は、半日の釣りで1kgを目安に考えています。

日本全国を釣り歩く遠矢氏。
蓄積された情報量は膨大なものに。

冬～春

冬から春にかけてはエサ取りが少なく、チヌの活性も低い時期。ですのでブレンドする配合エサには、集魚力と活性を高める力、それに食いを持続させる能力が強く求められます。それを叶えてくれるのが、”MP（マキシマムプロテイン）酵母“配合の「チヌパワースペシャルMP」に、「純正イワシ粉末」がたっぷり入った「イワシパワーチヌ」、そして酵母、オキアミ、ムギなどが入った、お馴染みの「チヌパワー」など。特に「チヌパワースペシャルMP」の寄せパワーは強力で、この配合エサを使っているときは、ほかの釣り人に負けたことがないほどです。

冬～春のブレンドパターン（半日分）

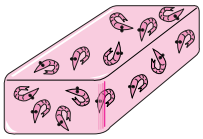
●磯（チヌが浮くところ）

チヌパワースペシャルMP
2袋

＋

イワシパワーチヌ
2袋

＋



オキアミ
1kg

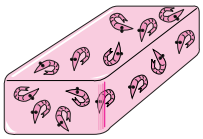
●波止

チヌパワースペシャルMP
2袋

＋

チヌパワー
2袋

＋



オキアミ
1kg

春～夏

春から夏にかけては、水温が少しずつ上がってチヌの活性も高くなるのですが、同時にエサ取りも増えてきます。ときとして集魚力がアダになることもありますので、水温の上昇にあわせて徐々に集魚力重視から、エサ取りをかわしてチヌのタナに届かせるための、重さとネバリのあるブレンドへと変化させていってください。

お薦めの配合エサは、「チヌパワー日本海」。10秒間に約3・0mも沈下する重さがあり、たとえ水深が20mもあるような釣り場でも、ダンゴ状のまま落とすことが可能です。ヒシャク離れがよく、優れた遠投性も魅力ですね。

夏～秋

この時期はエサ取りがもっとも多いときで、付けエサ、配合エサ・オキアミの層ともにタナまで届かないということがよくあります。ですから、やはり集魚力よりも重さやまとまりをメインに考えた、「チヌパワー日本海」主体のブレンドパターンがお薦めになってきます。特にエサ取りが湧くようになる後期からは、「チヌパワー日本海」の単品使用でいいでしょう。

春～夏のブレンドパターン（半日分）

●初期

チヌパワー日本海 1/2袋 ＋ チヌパワースペシャルMP 2袋 ＋ チヌパワー 1袋 ＋ オキアミ 1kg

●後期

チヌパワー日本海 1袋 ＋ チヌパワースペシャルMP 1袋 ＋ チヌパワー 1袋 ＋ オキアミ 1kg

夏～秋のブレンドパターン（半日分）

●初期

チヌパワー日本海 1袋 ＋ チヌパワー 2袋 ＋ オキアミ 1kg

●後期

チヌパワー日本海 2袋 ＋ オキアミ 1kg

秋～冬

秋から冬にかけては、次第にエサ取りが少なくなっていき、チヌの活性も落ちてきます。配合エサには徐々に集魚力が求められるようになりますので、少しずつ「チヌパワースペシャルMP」や「チヌパワー」使う比率を上げていけばいいでしょう。

エサ取りが少なく較的水深が浅いところでは、配合エサとオキアミは、かき混ぜるだけにします。反対に、深いところやエサ取りの多いところ、また、流れの速いところで近場を釣りたいとき、そして速い勝負をしたいときなどには、練り込んで使うといいでしょう。

◆◆◆

以上のように私がお薦めするブレンドパターンを紹介してきましたが、これらは当然、エサ取りの数や釣り場の水深、潮流の速さ、また磯で釣るのか波止で釣るのかといったことで変わってきます。あくまで目安として考え、諸条件には練り具合で対応するなどしてください。

皆さんが、満足のいくチヌ釣りを楽しまれることを願っています。

秋～冬のブレンドパターン（半日分）

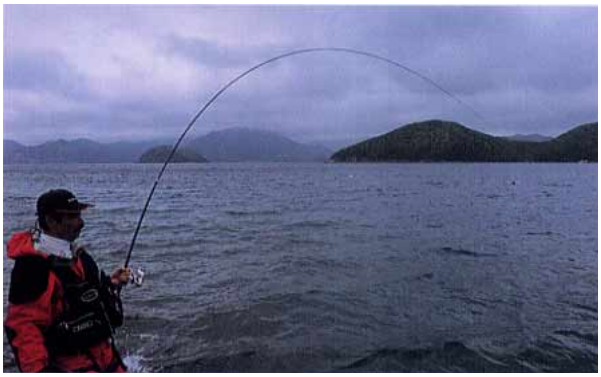
●初期

チヌパワー日本海 1/2袋 ＋ チヌパワースペシャルMP 1袋 ＋ チヌパワー 1袋 ＋ オキアミ 1kg

●後期

チヌパワースペシャルMP 2袋 ＋ チヌパワー 2袋 ＋ オキアミ 1kg

やり取りは慎重に。バラシほど悔しいものはありません。



情報の収集と適切な分析が、釣果につながるのです。

マルキューグッズ はみだし情報・1

粘力（ねんりき）

へら鮒釣りに使う麩エサの、エサ持ちをアップさせる“強力なエサ持ちの素”。遠矢氏はこの「粘力」を「チヌパワーくわせダンゴ」に振りかけることで、軽く握っただけのエサでもバラケが遅くなるようにし、深いタナまで届けるのだそうです。好きなときに好きなだけ使えるフタ付きですので、常備されてはいかがでしょう。便利な計量スプーンも付いています。